

ご挨拶

桜美林大学キリスト教研究所は、桜美林大学総合研究機構に属し、キリスト教を歴史的・社会的にグローバルな視点からとらえ、研究を重ねています。2017年はマルティン・ルターの宗教改革500周年にあたりますが、それを記念して、いま国内外でもっとも注目を集めているオルガニストの一人である富田一樹さんをお迎えし、「ルターからバッハへ」と題するコンサートを企画しました。この記念すべき年を富田さんの演奏で飾ることができるのは大きな喜びです。

桜美林大学に備えられたオルガンは、スイスのフェルスベルク社製で、2008年に完成しました。三段の手鍵盤と足鍵盤を有していますが、第一鍵盤(Hauptwerk)と第二鍵盤(Oberwerk)は、バッハと同時代に中部ドイツで活躍したオルガン製作者ゴットフリート・ジルバーマンのスタイルを踏襲しており、バッハを演奏するにふさわしい音色を持っています。オルガン全体のデザインや、ストップノブの形もジルバーマンのものに倣って作られています。

どうぞこの機会に、桜美林大学礼拝堂で富田一樹さんの演奏するバッハをご堪能ください。一緒に宗教改革後500年のキリスト教のあゆみに思いを馳せたいと思います。

桜美林大学キリスト教研究所長 井上大衛

=====

演奏者：富田一樹（とみたかずき）

大阪音楽大学オルガン専攻を最優秀賞を得て首席で卒業。同大学音楽専攻科オルガン専攻を修了。オルガンを土橋薫、ピアノを大竹道哉の各氏に師事。2016年7月、ドイツ-ライブツィヒ第20回バッハ国際コンクールのオルガン部門にて日本人初となる第一位と聴衆賞受賞。2016年8月に摂津市教育文化功労賞受賞。NHK・FMラジオ「リサイタル・ノヴァ」（2016年11月）、MBSテレビ「情熱大陸」（2016年12月）出演。現在ドイツ・リュベック音楽大学大学院オルガン科に在学中。オルガンをアルフィート・ガスト（聖ヤコビ教会オルガニスト）、古楽をハンス・ユルゲン・シュノールの各氏に師事。バロック音楽を得意とし、国内外で数多くの演奏会に出演。また編曲家、指揮者としても活躍。アンサンブルシータと阪神古楽倶楽部の通奏低音奏者、日本オルガニスト協会会員。

お申込みについて

この公演は、あらかじめメールにてご予約いただければありがたく存じます。obirin.organ@gmail.comにお申し込みください。メール件名は「富田一樹コンサート」、本文にはご氏名、よみがな、人数、お電話番号をご記入くださるようお願いいたします。メールを確認しましたらお返事さしあげます。

お支払いは当日、受付にてお願いいたします（小学生、未就学児は無料です）。

なお、席は400となっております。満員になりましたら締め切らせていただきます。

また、会場には駐車場がありませんので、ご了承お願いいたします。